

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274201686		
法人名	有限会社ライフレビュー		
事業所名	まつもとデイ・グループホーム長沼 (3F)		
所在地	静岡市葵区長沼2丁目11-20		
自己評価作成日	平成21年12月14日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=2274201686&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=2274201686&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成21年12月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

デイサービスを併設している為、外部の方とも多く交流の場が持てる。管理者が接骨院を開業している為、利用者様の希望があれば、マッサージなどのサービスを受けることが出来る。  
家庭的なサービスを職員一同で心がけているので、ご家族の方も気軽に面会に来れる、また、いつでも相談できる環境になっている。地域の小学校からの訪問をうけいれているため、普段接する機会が少ない子供たちと過ごす時間も多、施設として福祉の学習の場として提供している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

母体が接骨院であり他の福祉サービス事業所も運営していることから、多様なサービスが提供できている。例えば、併設されているデイサービスの機能訓練士が必要に応じて担当したり、希望者にはマッサージや身体の状態についての調整を代表者自ら支援している。また、地域との関わり合いも多岐に飛んでいる。例えば、児童が缶集めをして車椅子を寄贈してくれたり、外部講師として職員が授業を受け持ったり、学校全体でウエスを作り届けてくれるというように、近くにある千代田小学校の子どもたちとの親交は深い。このように、次世代を担う子どもたちへの福祉教育への貢献度は高く、地域密着の事業所としてその役割を十二分に果たしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	複数の職員が離職したので、新たな職員もいて落ち着いていない状況もあるが、ホームの特性を踏まえて理念の実現にむけてどのように取り組むかを、話し合い確認している。	視界に入る確率の高い場所を選び掲示し、浸透に努めている。また、話し合いや勉強会の機会も十分設けている。	理念を達成するための具体的な目標を個々の職員がもつことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治活動に積極的に参加し、地域住民との交流も深めている。地域の小学校の福祉の学習を受け入れ気軽に立ち寄れるホームづくりを開設以降行っている。	職員が地域住民であることもあり、開設当初から地域に自然に溶け込んでいる。特に、地域の小学校との福祉教育の連携は実り多い活動となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りに利用者とともに参加し、施設の紹介を兼ねて掲示板を設置。皆さん興味深く見学され、質問も受付けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年12月に第二回運営推進会議を行い、今年度は平成22年1月に開催予定。会議の開催意義を理解しており利用者本位のサービス提供に繋げるための話し合いを行うよう努力する。	2ヶ月の1度の開催はできていないが、会議での課題を具体的に解決できている。	運営推進会議を年間計画に入れ、かつ参加者の分母を増やし欠席者がいても開催できるように準備することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連絡を密に取り、現状の報告や運営への助言を受けている。	書面の大半は郵送で、電話での連絡で済ませるケースが多いが、連絡は密にとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3階建ての2・3階がホームとなっているため、玄関は昼夜問わずオートロックとなっている。利用者の行動制限することは一切ないが、建物の構造上やむを得ないところがある。	安全面を配慮しセンサーを設置し、出入りがわかるようにしている。利用者の要望が表情や態度、またはセンサーでわかれば職員が同行して戸外にできるようにしている。気温など外出への障害がある場合は、共有空間を一緒に歩いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や、ケアマネージャーについては研修などに参加し、研修内容を職員に報告し、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族との関係の薄い方には、積極的に権利擁護事業の活用を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書などを読み上げて、疑問があればその都度うかがっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員が話を聞いているほか、経営者も直接意見を聞いている。	ユニットリーダーと事務担当者が平日の日勤に必ず居るという事が家族が安心して話せる状況をつくれている。職員も面会時には日頃の様子を伝えることに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を必ず開催しており、その際に様々な問題について話し合う。	リーダーは話しやすい雰囲気づくりを常に心がけている。また、1対1で解決しないで、他の職員からも聞きとりをして、課題を個人から全体へと拡げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1度、職員個々の努力や実績に応じた給与水準見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上を図る為には、職員研修の充実が必要であることをよく理解している。法人内での定期的な研修を行うほか、外部研修にも積極的に職員を受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて地域の事業所への連絡を行ったり、会議で情報交換を行うが、定期的な交流や勉強会を行うまでには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはできるだけ、本人にもホームの見学をしていただき、ご家族・本人からの要望を聞くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、本人のいない場所で、困難に感じていることなど入居してからの要望を聞いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、家族、本人とも話し合いを行ってから入居の手続きを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はできる限り利用者に寄り添い、様々な出来事を利用者と共有しようとしている。利用者を人生の先輩であるという認識を持ち、利用者からも教えられるように考えて接し、ともに喜び合えるような関係になっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を密に取り合い、利用者の方のご様子を報告している。また、ホーム内においての行事の参加を呼びかけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用申込があった場合には、利用希望者宅に訪問し、顔なじみの関係となった上で利用につながるように留意している。面会に気軽に着いていただけるようご家族に声をかけている。	入所してからの馴染みの関係の継続として、1階のデイサービス、2階と3階のの行き来がある。1～2週間に1度は往来している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置を配慮し、良い関係を築けるよう努力している。困っている利用者を隣の方が声をかけ関わりをもてるような環境づくりに配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族などからの相談などは時々あり、その都度対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の生活歴を把握するとともに、日常生活の中での言動やしぐさ等からも利用者の意向や思いを把握するようにしている。把握した内容は記録し、すべての職員で共有するようにしている。		どの職員も利用者との会話に時間を多くとるようにしている。また、事務所にもよく訪問があり、事務担当者と話をしていく利用者もいる。事務担当者もその中で気づきがあれば、ユニットリーダーにフィードバックしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族・本人から生活歴などを細かく聞き取りをして、利用者の情報を把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をつけているほか、職員会議にて意見交換をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度開催されるカンファレンスの中で、利用者の気づいた点等を出し合い具体的な計画策定をしている。また策定後は経過観察し計画内容が適しているか確認を行っている。利用者および家族の意向を十分反映できるようにしている。		1名の利用者に主、副2人の職員が担当がいるが、基本的には全員でモニタリングをしている。家族には随時心身の状態を伝え、また過去の生活歴なども都度確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日細かく記録し、申し送りノートを作成し職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズや家族の希望などをプラン作成時に考慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性があれば、その都度対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診支援を行っている。またホーム協力医による往診も月2回あり健康チェックや血液検査等を行っている。	医療連携加算をとっている。協力医療機関は24時間体制で、往診も月2回ある。医療記録も変化があれば随時つけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者に異常があった場合すぐに看護師に伝えて、適切な指示などを受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病院からの問い合わせには、対応し情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応についてホームとしての方針を定期的に利用者及び家族等に意向を確認するようにしている。個々の利用者に対するターミナルケアのあり方を繰り返し話し合っている。	契約時に「できること」「できないこと」を家族に伝えている。状態の変化に応じて都度話し合うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による、定期的な応急救護の実践訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っているが、地域住民に協力を仰げる関係にまでは至っていない。	夜間を想定するなどの設定条件を替えて取り組んでいる。	炊き出しなど交流の時間もつくり、地域の方々と一緒に避難訓練に取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーや尊厳を大切に考え、言葉かけ等でもそれを損ねることない様に留意して取り組んでいる。	声の大きさなどについて所内研修を繰り返し行っている。また、何か始める前には利用者の意見を聞くようにすることを職員間で徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを日々聞くよう努力し、本人の希望を尊重できるように取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の概ねの流れはあるが、利用者個々の思いや希望ペースを尊重し、それに従った支援が行えるようにする。充実した生活が送れるように、利用者に寄り添いながらの支援が行われている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台には、スプレー・ブラシなどを設置している。その他、化粧水・クリームなど利用者が利用されるものを各居室に設置している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設しているデイサービスの調理室で昼食は一括調理されるが、配膳や片付け等は職員と利用者が一緒に行っている。利用者も調理や食事準備に関わり、職員も同じものを食しながら食事時間が楽しくなるように工夫している	落としても簡単に割れず、しかも肌触りなどの体感覚が陶器に近い「コレール」という食器を使用している。会話を楽しみながら食事ができている。常には外注だが、味噌汁など一品はつくようにしている。また、時にはイベント的に作ることもある	食事は内部外注で担当者は事業所内を自由に行き来していることから、メニューとともに高齢者への接遇などについて理解を求めることを期待する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕食時の水分量確保をはじめ10時15時の水分補給を行っている。夏場は、各居室にお茶・コップの設置を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕と声掛けを行い口腔ケアを自ら行っていただいている。再度、磨き残しの確認も行っている。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の有無を明確に判断し、最小限でのオムツの使用で努めている。日頃の観察の中でパターン化を把握し声掛けをまめに行っている。	入所時に排泄と失禁の有無について確認した上で、排泄チェックによるパターンを把握し、申し送りを丁寧に取り組むことで利用者の排泄状態を向上させている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の少ない方などは、こまめに少量ずつの水分を摂取していただき、また、集団・個別体操・歩行訓練などを行っていただくよう声掛けを行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声をかけ、入浴であることを伝え、気分的に入りたくない方は、翌日に変更したり、再度声かけを行ったりしています。	清潔保持だけでなく、楽しみながら入浴できることを考えている。その一環として、アクティビティの時間に利用者と職員でつくった入浴剤を使うこともある。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、居室にご自身にて行かれる方もいますが、共同スペースにてとうとうとされている方には声かけをするようにしている。夜間入眠前まで居室の温度調節を行うようにしています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに確認できるよう個々の処方箋を一定の場所におき2週間毎看護師の確認を入れている。薬の変更などは看護師より申し送りノートに記入され薬の確認を日勤者で行い、夜勤者に申し送っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を把握し、それが日常生活で継続して行えるように支援している。ホーム内の役割も利用者が自然に関わっており、利用者と職員が楽しそうに行っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って、積極的に外出できるように支援している。また、季節に応じた外出や利用者の誕生日には希望する場所への外出等も行っている。	事業所で何か準備し提供するという事は誕生日企画以外にはないが、日頃の会話の中で利用者の希望を聞くよう心がけている。その結果、近隣のファミリーレストランなどでの外食や買い物に出掛けている。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の力に応じ、お金を使う時は必ずこえ掛けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望にはできるだけ応じるよう努力しているが、ご家族の気持ち・生活も考慮して行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節感を出すよう利用者様と話し合い外出先でとった写真などを提示している。温度調節にも気を配りテレビを音楽にかえ音の調整も行っている。	アクティビティで利用者と職員が一緒に作った壁画や管理者が制作した折り紙細工などが飾られ、小さな展覧会のように楽しさや優しさがそこかしこにある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う同士は、自然と席を移動されたりしているため利用者同士に任せているところもあり、畳・ソファなどを使用した、テレビコーナーを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用されていたタンス・テレビ・布団等を持ち込んでいただき利用されている。茶碗・湯のみなどは自身に選んでいただいている。	好みの家具や小物が置かれ、それぞれの部屋づくりができています。また、心身の状態や希望に応じてPTイレなども持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事とできないことを個々に理解し、できることに対し分担をして行うようにしている。		